平成１７年７月１５日

国際貢献プロジェクト「大連の筑波大学」
－大連大学に出張して日本語・日本文化学類教員の連続講義－

日本語・日本文化学類長
今井　雅晴

１　国際貢献の重要性

今日、日本は国際化し、海外の人々から大きな恩恵を被っている。しかし海外の人々との交流を行なう際に、ともすれば摩擦を生じている。このような時代だからこそ、海外の人々と、より親しくなれるような草の根的な努力を日本の側からすべきである。そのためには積極的な国際貢献を心がけねばならない。

２　日本語・日本文化学類の活動

正式名称と教員・学生数

筑波大学第二学群日本語・日本文化学類

教員：　　２１名

学生定員：１学年４０名（現員として毎年５０名程度が入学）

(1) 学類の性格

①　教育組織であること。

②　学類の教育目的：日本語および日本文化を海外の人びとに正確かつ的確に発信し、豊かに国際交流を進めることのできる人材を養成する。

・日本文化発信のための有力手段に日本語がある　世界の人々に日本語を教える技能も身につける。

現在、世界各国で日本語を学んでいる人は、約２３０万人。近年は中学生、高校生も増加してきた。

・１９８０年代、９０年代の前半は日本の経済力に関心が集まっていた。

・９０年代後半以降は、日本の文化に関心が移動しつつある（伝統的文化、アニメ）。

③　海外の大学や留学生との交流も積極的に行なっている。

④　多くの留学生を迎え入れている（人数は筑波大学１８学類・専門学群で最も多い）

・日本語・日本文化研修留学生（文部科学省が世界各国に募集。１０月から翌年９月までの１年間）

・半年、１年の短期留学生（各種の奨学金を得る）

韓国の大学－半年の海外留学を義務づける大学が増加しつつある

・４年間の正規生

日本人学生　チューターとしてお世話、学ぶ、外国への留学も多い

(2) 学類としての海外の大学との交流状況

①　フランス・リヨン第三大学

筑波側：　教員、リヨン第三大学を訪問

学生、日本語教育の実習

リヨン側：教員、筑波大学での講演、学生指導

学生、筑波大学に留学

②　イタリア・カターニャ大学

筑波側：　教員、カターニャ第三大学を訪問

学生、日本語教育の実習

卒業生、カターニャ大学に就職（日本語教育）

③　スロヴェニア・リュブリャーナ大学

筑波側：　教員、客員教授として赴任

学生、日本語・日本文化教育実習

卒業生、リュブリャーナ大学に就職（日本語教育）

リュブリャーナ側：

教員、筑波大学に就職

筑波大学で集中講義（連年）

学生、筑波大学に留学

④　トルコ・ボアジチ大学

筑波側：　教員、ボアジチ大学

学生、ボアジチ大学に就職（日本語教育）

ボアジチ側：

教員、筑波大学で講演、学生指導

学生、筑波大学に留学

⑤　中国・大連大学　（別記）

⑥　韓国・高麗大学

筑波側：　教員、高麗大学を訪問

高麗大学：教員、筑波大学を訪問

学生、筑波大学に留学

⑦　台湾・国立政治大学

筑波側：　教員、客員教授として赴任

国立政治大学側：　学生、筑波大学に留学

３　国際交流によって受けている恩恵

・多くの外国の大学と盛んに交流を行なうことによって、学生はもちろん、教員の受

けている恩恵ははかり知れない。
外国の人たちの考え、風俗・習慣など多くを知ることができている
国際的感覚をいちはやく身につけられる
世界各国に友人ができる
外国で就職する卒業生も多い（特に日本語教育）
・受け入れている留学生は、最大限、大切にしている
・外国大学に出かけていき、個別にサービスをしている
客員教授、講演、日本語教育・日本文化教育の指導

4　さらなる積極的な国際貢献
・日本語・日本文化学類教員の知的財産で組織的に貢献
・本学類の担当教員の専門は、日本語学・日本語教育・言語学・コンピュータ言語学、日本歴史・比較文学・歴史地理学・日本民俗学・文化人類学・文化交流史など多岐にわたっている。
・本学類では、これら専門の学問的特色を生かし、国際貢献の一環として海外の大学に出かけていき、諸分野の教員で連続の出張講義をしようするものである。
今年度は海外の２大学で行なうことが決定（大連大学とリュブリャーナ大学）
使用言語は日本語（いずれ英語を使用することも検討する）
今年度のみでなく、向う十年程度を念頭に置く
全体のプロジェクト名を「世界の中の筑波大学」とした
個別の企画を、それぞれの国名・地域名・大学名から、例えば「中国・大連の筑波大学」などとする

5　大連大学について
①　概要
・大連は中国東北地方にあり、その政治的・経済的また国際的中心都市である。
・進出している海外企業は約１万社、そのうち日本企業は約２９００社ある。
・伝統的に親日的な土地柄でもある。
・大連大学は、１８年前に総合大学になった比較的新しい大学、ただし、大連市も力を入れていて（学長は市議会の副議長）、発展は著しい。
・大連大学と日本語・日本文化学類との交流は一昨年度から。
２００３年１０月　王文波副学長と宋協毅日本言語文化学院長、日本語・日本文化学類を表敬訪問
２００４年７月　大連大学日本言語文化学院において開催された第１回日本言語文化国際フォーラムにおいて、招聘されて今井日本語・日本文化学類長が講演、沼田善子助教授（人文社会科学研究科、日本語・日本文化学類担当）が研究発

表を行なった。

２００５年６月　　趙亜平大連大学学長、宋協毅日本言語文化学院長が筑波大学学長を表敬訪問、大学院で講演

②　今回の国際貢献プロジェクトの内容

・出張講義　７月２３日（土）、２４日（日）

・出張者　教員６名、大学院学生１名、学群学生３名

・６名の教員の連続講義　１人５０分

聴衆　大連大学教員、学生（主に日本語・日本文化を学んでいる者）、市民、大連在住の日本人、

・教員、学生、市民、企業関係者との交流会

・講義内容

［日本文化］

１　これからの日本文化研究－日本語教育を視野において

今井雅晴　教授・学類長、専門分野は日本文化史、文化交流史

２　日本の西欧化の中での詩歌

鳴島　甫　教授、専門分野は国語表現学、国語教育

３　日本的経営

吉武弘通　教授、学長特別補佐、専門は経営戦略論、大学経営論

［日本語］

１　異言語・異文化を比較する－対照言語学の視点－

高田　誠　　教授、元学類長、専門は対照言語学、社会言語学

２　日本語話法と文法

沼田善子　　助教授、専門は日本語学、日本語教育学

３　コーパスを使った文法研究

杉本　武　　助教授、専門は日本語学、コーパス言語学

③　国際貢献プロジェクトの第１回企画として大連大学を選んだ理由

・まず身近な外国から

・中国とはすぐ近くの外国として親しくしなければいけないが、またいくつもの問題がある。それらの問題は、個々に誠実に対応しなければならい。

・このプロジェクトは、私たちにできることをもって草の根的な活動を行ない、積極的に相手の中に入り、お互いに理解を深めようとするものである。その中で個々の問題も忌憚なく話し合える雰囲気を生み出し、ともに将来に向かって歩みたい。まず、身近で重要な国からこのプロジェクトを始めたい。そのような理由から中国、特に最近交流を深めて企画を実施しやすい大連大学を選んだ。

６　今後の計画

①　スロヴェニア・リュブリャーナ大学

２００５年１０月２１日～２８日
数名の教員
使用言語：日本語、通訳つき
講義および教員、学生との交流会
リュブリャーナ大学アジア・アフリカ学科日本研究専攻開設１０周年記念行事の一つ参加

② イギリス・シュフィールド大学（交渉中）

問合せ先：日本語・日本文化学類長室
電話　０２９－８５３－６７６４
FAX　０２９－８５３－６８３９
総務・企画部広報課
電話　０２９－８５３－２０４０
FAX　０２９－８５３－２０１４